

特集1

アベノミクスを検証する

第2次安倍政権が打ち出した経済政策、通称「アベノミクス」。デフレから

の脱却、一定の経済成長の達成など日本経済の再生をめざしているが、果たしてその効果やいかに。昨年12月に行われた衆議院解散総選挙では自民党が圧勝し、アベノミクスの経済政策が支持された形となった。いや、国民にしてみれば「もう少し様子を見てみてやってもいいかな」くらいの気持ちだったかもしれない。

実際、円安にもかかわらず輸入が伸びない、GDPの2倍以上に膨らんだ財政赤字、改善したとされる有効求人倍率も正社員だけに限定すると未だ2人に1つの仕事しかない等、懸念材料が少なくない。

政権発足から約2年が経過し、そろそろ評価について議論してもよい時期がきた。もちろん、第3の矢「成長戦略」のように効果がでるまでに時間のかかるものもあるが、現時点までの評価を行い、

今後歩んでいくべき道を探ることは意味のあることであろう。

論者は本学経済学部4人のエコノミスト。岡田敏裕教授（総括）、田中敦教授（第1の矢…大胆な金融緩和）、高林喜久生教授（第2の矢…機動的な財政支出）、土井教之教授（第3の矢…民間投資を喚起する成長戦略）である。さあ読んでみてください。授業で学んだ知識が役に立つはずですよ！

（編集担当…西村智）